

・小規模多機能ケアの拡充

「くらし支え合いNPO・地域支援事業」で取り組んだ「あったかほーむ」研修において、3事業所を訪問しそれぞれの小規模多機能ケア取り組みに学べたことは収穫であった。特に「生活機能」の維持・向上に取り組まれている「木もれび」さんでの研修は、会員間の交流にもつながった。

ネット単独で予定していた「認知症ケア・小規模多機能ケア研修」は実施出来なかったが、共催事業として取り組んだ「自然死のすすめ」（平成26年3月）研修は関連の内容としても大いに参考になるものであった。

「小規模多機能ケア」の究極ともいえるべき自宅や地域密着型事業所における「在宅看取り」の支援についてはネットワークとしての取り組みには至らなかったが、会員事業所で実際の支援を行ったり、セミナーを開催したり、ラジオ出演での広報活動を行った。

・くらし（地域）支え合い活動の推進

あったかほーむ研修（「ひだまり」）において地域住民や医療機関、行政や他の介護機関と協働した支え合い活動を学んだ。また同じく「れがーと」での研修では福祉（介護・障がい）と食とエネルギーという異分野の取り組みを一体的に行い、地域の支え合い、活性化につなげるという事例に学んだ。

「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」の中の「くらし支え合いアドバイザー活動」では、小規模多機能ケアを中心とした支え合い活動を展開している介護拠点への訪問受け入れや地域サロンや介護事業所等への出前講座等を実施し、助け合い支え合い活動の推進を図った。

「くらし支え合い支援フォーラム」では新潟：こぶし園の小山さんより、地域を施設に見立てた地域ケアの実践を語ってもらった。住民、事業者、行政の協働による支え合いがあれば、小規模分散型のサービス拠点を利用していつまでも住み慣れた所で暮らし続けることが可能であることを学んだ。

「くらし支え合い支援講座」では小規模事業所の中期運営支援として、平成27年度からの小規模通所介護事業所の見直しについて学んだ。各事業所の今後のあり方と共に、利用のおとしよりが住み慣れたところで、いつまでも元気に暮らし続けるためには、生活機能の維持・向上とそれに向けた支援が欠かせないということを再確認した。

ネット事業としては表に出ていないが、各会員事業所が（小）地域の拠点として、日常的もしくは非日常的な支え合い活動に取り組まれている情報が多く届いた。

・「いきいき生活支援員」の制度（事業）化

平成22年度に続いて、障がいのある人たちの介護分野での雇用（就労）実態調査を行った。前回に比べれば簡易な調査であったが、雇用数や障がい種別、施設・事業所種別や圏域別数などの貴重なデータを得た。特に雇用数では前回の60名から、わずか3年で103名と飛躍的に伸びた。

滋賀県、滋賀県社会就労事業振興センター、街かどケア滋賀ネットが協働して取り組んできた成果を誇るとともに、いっそうの雇用開拓・就労促進のために「障害者の介護現場等での就労促進研究事業」を行った。

保育や介護分野等で働く障がいのある人たち（「いきいき生活支援員」）の現任研修として食事準備・片付けや車いすの使い方等の「スキルアップ研修」を行った。例えば手洗い

やうがいの実際について、大いに参考になったという声が聞かれた。

この「スキルアップ研修」後等に「いきいき生活支援員交流会」を実施した。1回目は、これから就労をめざす人たちの参加もあり活発であったが、2回目は参加も少なく開催曜日や場所等に課題を残した。

それぞれの介護の場で「いきいき生活支援員」の就労を支援する担当スタッフを対象に、「内部ジョブコーチ研修」を実施した。障がいの基礎知識や“ならでは”の働き等の学びも大きかったが、参加者同士の意見交換や相談も大いに参考になったとの声が上がった。

平成26年3月に行われた「いきいき生活支援員の介護の場等での活躍を伝えるフォーラム」では2事業所で働いている「いきいき生活支援員」についての報告があった。宅老所で働く女性スタッフが目の前のおとしよりにゆったり感を提供するだけでなく、職場や時には近隣地域にまでそのゆったり感を提供することが報告された。特別養護老人ホームで働く男性スタッフについては、介護の仕事へのサポートはむろん、運転免許の取得に対しても、そのユニットのチームが応援したというほほえましい事例が紹介された。

その後の鼎談ではこれまでの12年間の振り返りの中から、再度「いきいき生活支援員」の雇用の意味と必要性が確認された。また雇用の推進のためには滋賀県らしい制度化を関係機関が協働して進めていくことが確認された。

「マニュアル・Q&A」集の作成においては、今年度も2名の「いきいき生活支援員」の現地ルポを掲載した。また雇用事業所一覧を掲載し、雇用相談や職業生活支援の相互相談に備えた。今後の雇用事業所のネットワーク化につながる一步かと考えられる。

平成12年から始まった「知的障害者ホームヘルパー養成研修・就労モデル事業（現知的障害者介護技能等習得事業）」をベースにした「いきいき生活支援員」の介護の場等での活躍（雇用・実習等）は、前述のように現在103名に広がっている。特にそれぞれの“ならでは”の働きは認知症を抱えるおとしよりの生活のリズムに合い、おとしよりにより大きな安心感やゆったり感や生活感を与えている。また従来スタッフの振り返りにつながったり、チームワークの推進に貢献するなどの役割を果たしている。

今後いっそうの雇用の拡充をめざすために、上記のスキルアップ研修等を実施してきた。それらをまとめ「障害のある人の介護現場での働きとその機会のインセンティブとなる資格認定に係る政策提案」として8月に滋賀県に対し制度提案を行った。これを受けた滋賀県は平成27年度からの滋賀県らしい「いきいき生活支援員」の制度化に向けて動き出した。

#### ・NPO 法人で再スタート

地域における「小規模多機能ケア」と「くらし支え合い活動」の推進を掲げて平成13年3月から活動を続けてきた「街かどケア滋賀ネット」も13年目を迎えるにあたって法人化を果たした。滋賀県民や県や市町、あるいは関係機関に対しても責任ある活動を続けるためにNPO法人として再出発することになった。またその執行体制も各ブロックの中堅層にお願いし、迅速確実な事業展開に備えた。「住み慣れた所で一人でも多くの人が一日でも長く自分らしく暮らし続けるために」それぞれの事業所や地域で「街かどケア」の実践がさらに広がるよう力を合わせていくことを誓った。

平成25年8月にNPO法人の認証と登記を終え、12月に記念式典と研修会を開催

した。今後は滋賀県老人福祉施設協議会や滋賀県介護保険サービス事業者連合会、滋賀県介護福祉士会や大学等の研究機関とも連携を強め「街かどケア」の拡充につとめていきたい。

・「いきいき生活支援員」の制度化の受け皿としての新たな NPO 法人の準備

協議の結果、別法人は作らないこととした。

・街かどケア滋賀ネット自主事業：事業所間交流会の実施

「くらし支え合い NPO・地域支援事業」の中の「あったかほーむ研修」終了後、開催地ブロック会員を中心とした交流会を実施した。研修内容を中心とした有意義な意見交換が行われた反面、例年交流会開催を要望されている会員の参加は少なく、課題を残した格好となった。

・小規模多機能ケア・認知症ケア研修会の実施

単独事業としては実施出来ず、他団体が実施した「自然死のすすめ」研修会（別紙）に共催し参加した。

・その他

2013年3月京都で開かれた「宅老所・グループホーム全国研究・交流フォーラム」の実行委員会に参加した。

なお近畿ブロックとしての活動は、県外研修等を行われず、全国フォーラム実行委員会の活動が中心であった。

また県や市町行政、その他団体・ネットワークとの連携・協働については、各事業（研修）の後援や会場提供をいただき、併せて参加推奨や研修への職員派遣をいただいた。